

## 1.2 河川に生息する生物の確認状況（河川の自然度・健全度）

ここでは河川や河口環境と関わりの深い種や、私たちにとって馴染み深いサケなどの確認状況を整理しました。なお、前回、前々回調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしか見られない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

### 【各河川の主要な魚種】

（魚介類調査）

- ウグイ属魚類やオイカワ属魚類を多くの河川で主要構成種として確認  
対象河川の魚種の種構成を把握するために、捕獲個体数の多い魚種を整理しました。  
今回とりまとめを行った43河川において、北海道地方、東北地方や北陸地方では、ウグイ、エゾウグイなどのウグイ属魚種の割合が、関東地方以南ではオイカワ、カワムツなどのオイカワ属魚種の割合が高い河川が多くみられました。また、オイカワは従来の分布域ではない東北地方の鳴瀬川や新井田川で主要構成種(捕獲個体数の多い上位5種)に含まれました。  
(資料掲載: 1-15ページ)

採集方法により捕獲されている魚種や成長段階が異なること、群をなしている仔稚魚が大量に捕獲されることがあり、必ずしも各河川の種構成を表現しているとはいえません。しかしながら、多く捕獲された魚種は、日本の河川環境の一端を表現しているものと推測されます。

注目種の出現状況を見ると、メダカが中部地方の3河川で主要構成種に含まれました。また、外来種では、タイリクバラタナゴが中部地方の笹笛川、大堀川で主要構成種に含まれました。その他外来種では、オオクチバス（ブラックバス）が淀川（檜尾川）で主要構成種に含まれましたが、その割合はあまり高くありませんでした。これらの河川では、本来の魚種の種構成が変化してしまう可能性があることから、今後もモニタリングを継続して行う必要があると考えられます。

## 捕獲個体数の多い魚類一覧

地方	水系名(河川名)	1位	頻度	2位	頻度	3位	頻度	4位	頻度	5位	頻度
北海道	渚滑川	ウグイ属の一種	35.1%	エゾウグイ	22.0%	フクドジョウ	12.2%	ウグイ	5.1%	カワヤツメ属の一種 ・ヤマメ	4.8%
	常呂川	フクドジョウ	50.5%	ウグイ属の一種	13.5%	カワヤツメ属の一種	13.0%	イトヨ日本海型	6.7%	ウグイ	3.9%
	越前川	フクドジョウ	41.1%	エゾウグイ	21.4%	ウグイ属の一種	19.3%	カワヤツメ属の一種	3.7%	エゾハナカジカ	2.2%
東北	馬淵川	ニゴイ	28.5%	ウグイ	27.0%	ワカサギ	14.9%	アブラハヤ	10.1%	タナゴ	4.0%
	鴨瀬川	オイカワ	16.7%	ウグイ	15.5%	クサフグ	8.9%	ニゴイ	8.2%	アブラハヤ	7.1%
	新井田川※	ウグイ	32.4%	マハゼ	19.4%	ワカサギ	11.8%	アブラハヤ	8.4%	オイカワ	7.1%
	七北田川※	タモロコ	18.7%	ウグイ	17.7%	ウグイ属の一種	6.0%	ウキゴリ	5.7%	スマチチブ	5.5%
関東	利根川(中川・後瀬川)	モツゴ	26.0%	マハゼ	12.5%	ボラ	12.0%	タモロコ	9.2%	アシシロハゼ	5.9%
	利根川(江戸川)	モツゴ	30.2%	スマチチブ	8.5%	マハゼ	8.3%	オイカワ	6.5%	スズキ	5.5%
	荒川	ハゼ科	25.3%	アシシロハゼ	18.1%	モツゴ	8.8%	マハゼ	7.5%	ボラ	5.8%
北陸	越前川	ウグイ	45.2%	アユ	42.7%	ボラ	2.0%	シミウキゴリ	1.7%	カマキリ	1.5%
	黒部川	ウグイ	31.0%	アユ	12.2%	シミウキゴリ	12.2%	エゾホトケドジョウ	10.4%	トミヨ	6.6%
中部	菊川	オイカワ	29.4%	スマチチブ	12.3%	シマヨシノボリ	6.2%	カワヨシノボリ	5.8%	ヒメハゼ	4.2%
	豊川	カワヨシノボリ	13.6%	ウキゴリ	10.7%	ウツセミカジカ	9.7%	オイカワ	8.5%	シミウキゴリ	6.6%
	鈴鹿川	オイカワ	31.4%	カワヨシノボリ	15.1%	ビリンゴ	10.6%	タカハヤ	5.6%	タモロコ	4.3%
	志原川※	オイカワ	67.6%	カワムツ	14.3%	シマヨシノボリ	7.6%	モツゴ・スマチチブ	2.2%	ギンブナ	1.5%
	相模川※	マハゼ	26.3%	ビリンゴ	16.8%	オイカワ	15.0%	アユ	9.8%	チチブ	6.6%
	三義川※	オイカワ	18.7%	ビリンゴ	16.5%	ボラ	12.5%	マハゼ	11.3%	スマムツ	8.3%
	百々川※	ビリンゴ	53.0%	ボラ	28.7%	マハゼ・アベハゼ	4.6%	チチブ	3.3%	メダカ	2.0%
	笹瀬川※	タイリクバラタナゴ	40.4%	ヤリタナゴ	15.3%	オイカワ	13.2%	タモロコ	10.2%	メダカ	8.2%
	大瀬川※	オイカワ	27.4%	タイリクバラタナゴ	14.9%	ヤリタナゴ	9.5%	ギンブナ	9.4%	コウライモロコ	8.4%
	前川※	カワムツ	24.1%	メダカ	15.6%	シマヨシノボリ	15.0%	マハゼ	11.5%	ボラ	10.5%
	近畿	淀川(雄名川)△	カワムツ	38.2%	オイカワ	20.6%	カワヨシノボリ	16.3%	ドンコ	12.8%	ムギツク・タモロコ ・カマツカ
淀川(安威川)△		カワムツ	27.6%	カワヨシノボリ	22.4%	カマツカ	21.9%	オイカワ	10.4%	ギンブナ	5.2%
淀川(櫻塚川)△		ギンブナ	47.5%	オイカワ	16.4%	タモロコ	8.2%	モツゴ・メダカ	6.6%	ウナギ	4.9%
淀川(檜尾川)△		オイカワ	67.0%	ギンブナ	13.2%	モツゴ	7.5%	ドジョウ	5.7%	オオクナバス(ブラックバス) ・ドンコ・カワムツ	1.9%
淀川(水無瀬川)△		オイカワ	48.1%	カワムツ・ドンコ	13.5%	タカハヤ	11.5%	ムギツク・カマツカ	3.8%	ギンブナ・アユ ・カワヨシノボリ	1.9%
大和川△		モツゴ	28.1%	オイカワ	22.8%	タモロコ	10.8%	フナ属の一種	10.1%	カワムツ	8.9%
紀の川		オイカワ	25.2%	カワムツ	9.7%	カワヨシノボリ	9.1%	ギンブナ	7.7%	アブラハヤ	6.0%
九頭竜川		ウグイ	14.2%	マハゼ	10.7%	アユ	10.4%	ギンブナ	10.3%	ニゴイ	9.0%
宇川※		シマヨシノボリ	20.3%	ウグイ	15.8%	シマドジョウ	11.0%	アユ	8.5%	シミウキゴリ	8.4%
佐濃谷川※		トウヨシノボリ	21.8%	オイカワ	18.5%	カワムツ	17.4%	ギンブナ	11.5%	モツゴ	6.2%
日置川※	カワムツ	22.1%	シマヨシノボリ	14.9%	チチブ	13.3%	スマチチブ	11.0%	ヒナハゼ	6.2%	
中国	天神川	カワムツ	35.8%	アユ	9.7%	ドンコ	8.8%	タカハヤ	7.7%	オイカワ	7.6%
	江の川	カワムツ	15.9%	ヤリタナゴ	8.4%	カワヨシノボリ	8.0%	アブラボテ	7.6%	オイカワ	7.4%
	高津川	スマチチブ	20.9%	カマキリ	15.3%	シマヨシノボリ	9.0%	アユ	8.3%	ゴクラクハゼ	7.5%
四国	越前川	オイカワ	35.2%	スマチチブ	10.6%	カワムツ	5.7%	シマヨシノボリ	5.5%	ビリンゴ	5.0%
九州	嘉瀬川	オイカワ	18.4%	カワムツ	13.0%	カマツカ	8.1%	ヤマノカミ	6.6%	タカハヤ	4.5%
	白川	オイカワ	23.2%	マハゼ	12.3%	カワムツ	11.7%	ボラ	7.2%	カマツカ・ヒイラギ	6.3%
	番匠川	カワムツ	32.3%	オイカワ	21.1%	チチブ	8.2%	マハゼ	5.3%	タカハヤ	4.9%
	川内川	ヤリタナゴ	28.1%	オイカワ	18.7%	カワムツ	16.0%	ヒイラギ	5.8%	カマツカ	3.7%
	駅前川※	オイカワ	36.5%	カワムツ	16.1%	カワヨシノボリ	9.6%	カマツカ	6.6%	ムギツク	5.7%
	役勝川※	ヒグワラスボ	7.7%	ノボリハゼ	6.4%	ミナミアシシロハゼ	6.1%	ツムギハゼ	5.3%	チチブモドキ	4.8%

注1) 頻度は、全捕獲個体数に対する各魚種の捕獲個体数の割合を示す。  
 注2) 水系名(河川名)欄の※は二級河川を示す。  
 注3) 水系名(河川名)欄の△は指定区間のみの河川を示す。

- サケの遡上が確認された最南（西）の河川は、日本海側では中国地方の江の川河川でのシンボリック的存在である、サケの遡上が確認された河川を整理しました。今回とりまとめを行った43河川において、サケの遡上が確認されたのは12河川でした。  
(資料掲載: 1-17、1-46ページ)

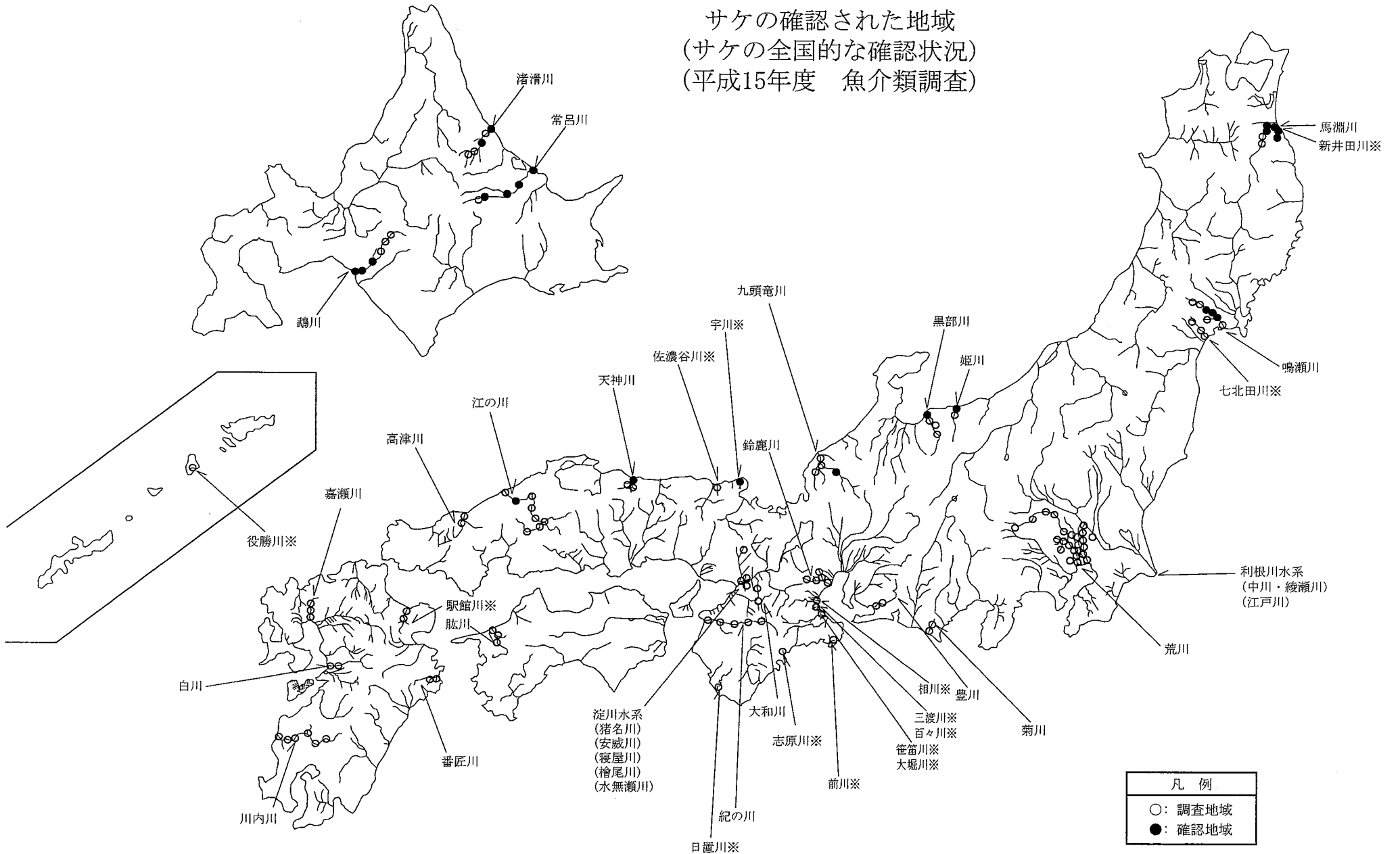
## 確認河川数の比較 (対象河川: 28 河川)

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
サケ	7 河川	9 河川	11 河川

食料資源として、また東日本の食文化を代表する魚種であるサケは、母川回帰（生まれた河川に帰って来る性質）を行うことから、河川でのシンボリック的存在として取り上げられる種です。

今回の調査では中国地方の江の川で成魚が確認されました。また、日本海側に流れる河川では、九州北部でもしばしばサケが遡上していることが知られています。

サケの確認された地域  
 (サケの全国的な確認状況)  
 (平成15年度 魚介類調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
 ※印は二級水系(河川)を示す。

- 全国の 22 河川でタビラクチ、ウキゴリ属 (エドハゼ、チクゼンハゼ、クボハゼ、ビリンゴ)、ヒメハゼ、スジハゼのいずれかの種を確認

河口域の干潟の環境特性を把握するための指標として、河口の干潟域を主な生息場所とするタビラクチ、ウキゴリ属 (エドハゼ、チクゼンハゼ、クボハゼ、ビリンゴ)、ヒメハゼ、スジハゼの 7 種を取り上げ、確認状況を整理しました。

対象魚類として取り上げた 7 種のいずれかが確認されたのは、今回とりまとめを行った 43 河川のうちの 22 河川でした。タビラクチは九州地方の白川で、エドハゼは関東地方と中部地方の 3 河川で、クボハゼは四国地方と九州地方の 2 河川で確認されました。ビリンゴは東北地方から九州地方までの 18 河川で確認されました。ヒメハゼは北陸地方を除く関東地方から九州地方までの 10 河川で確認されました。また、スジハゼは関東地方と九州地方の 4 河川で確認されました。なお、チクゼンハゼは確認されませんでした。

(資料掲載: 1-19~1-24ページ、1-46~1-47ページ)

確認河川数の比較 (対象河川: 28 河川)

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
タビラクチ	1 河川	0 河川	1 河川
エドハゼ	2 河川	3 河川	3 河川
チクゼンハゼ	0 河川	0 河川	0 河川
クボハゼ	0 河川	1 河川	2 河川
ビリンゴ	10 河川	10 河川	13 河川
ヒメハゼ	4 河川	5 河川	7 河川
スジハゼ	1 河川	3 河川	4 河川

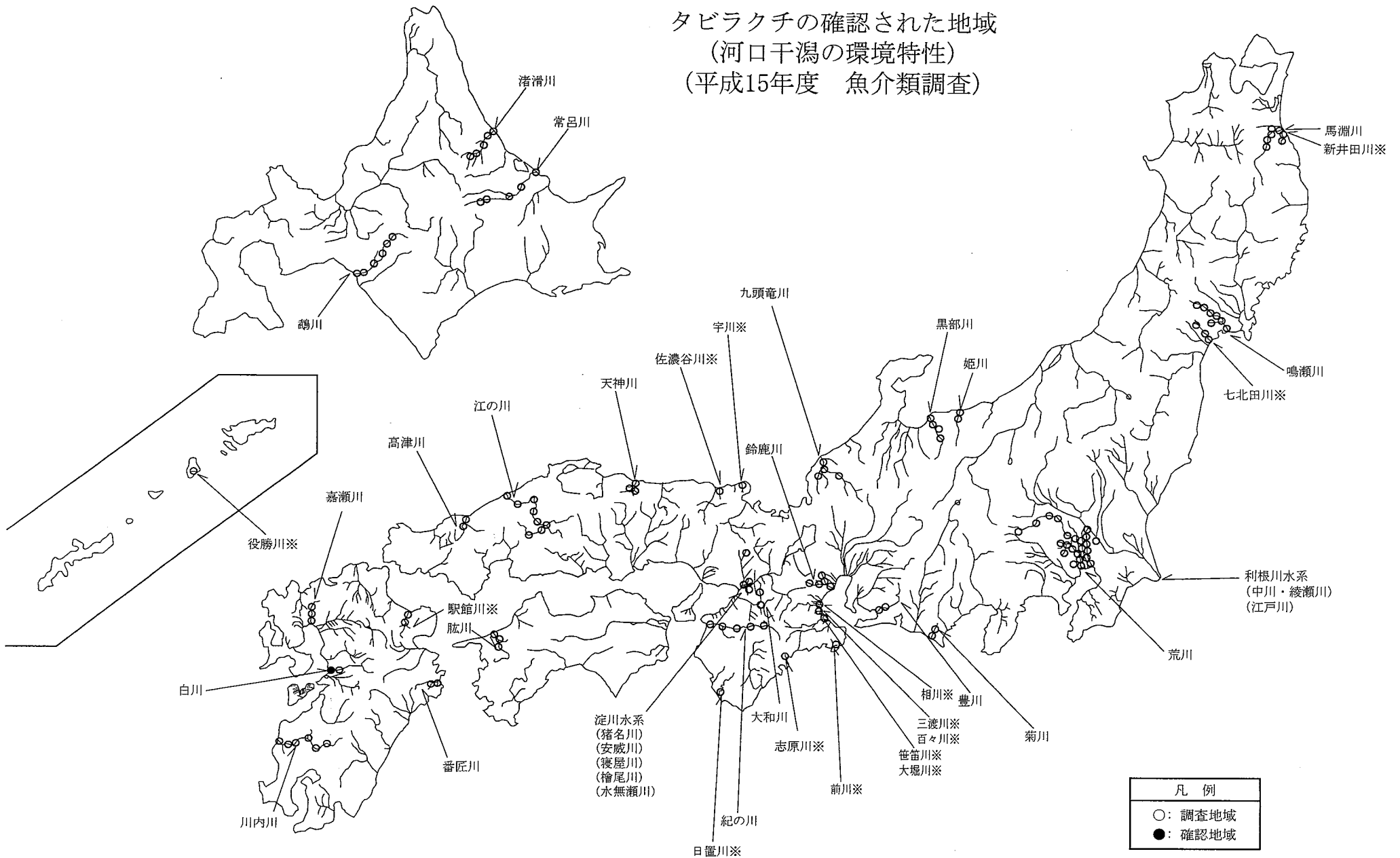
タビラクチは和歌山と兵庫以西に分布し、干潟や内湾の軟泥地に生息しています。また、エドハゼ、チクゼンハゼは東日本から九州までの広い範囲に分布し、河口域や汽水域に生息しています。クボハゼは西日本の河口域や汽水域にのみ生息しています。

ビリンゴは北海道、本州、四国、九州に分布し、川の感潮域や汽水湖の泥底から砂泥底に生息しています。また、ヒメハゼは宮城県・山形県以南の本州、四国、九州、琉球列島に分布し、河口域やそれに続く前浜干潟に生息しています。スジハゼは全国に広く分布し、沿岸の浅い海域から河口の汽水域に生息しています。

前々回から今回の調査結果をみると、これらの種が確認された河川は少ない場合が多いものの、全体的に確認河川数の増加がみられました。しかしながら、経年的に確認されなくなった河川もみられました。従って、今後ともこれら河口の自然環境との関わりが深い魚類の生息状況をモニタリングし、その動向から河口干潟の保全を考えていく必要があると考えられます。

タビラクチの確認された地域  
(河口干潟の環境特性)  
(平成15年度 魚介類調査)

1-19

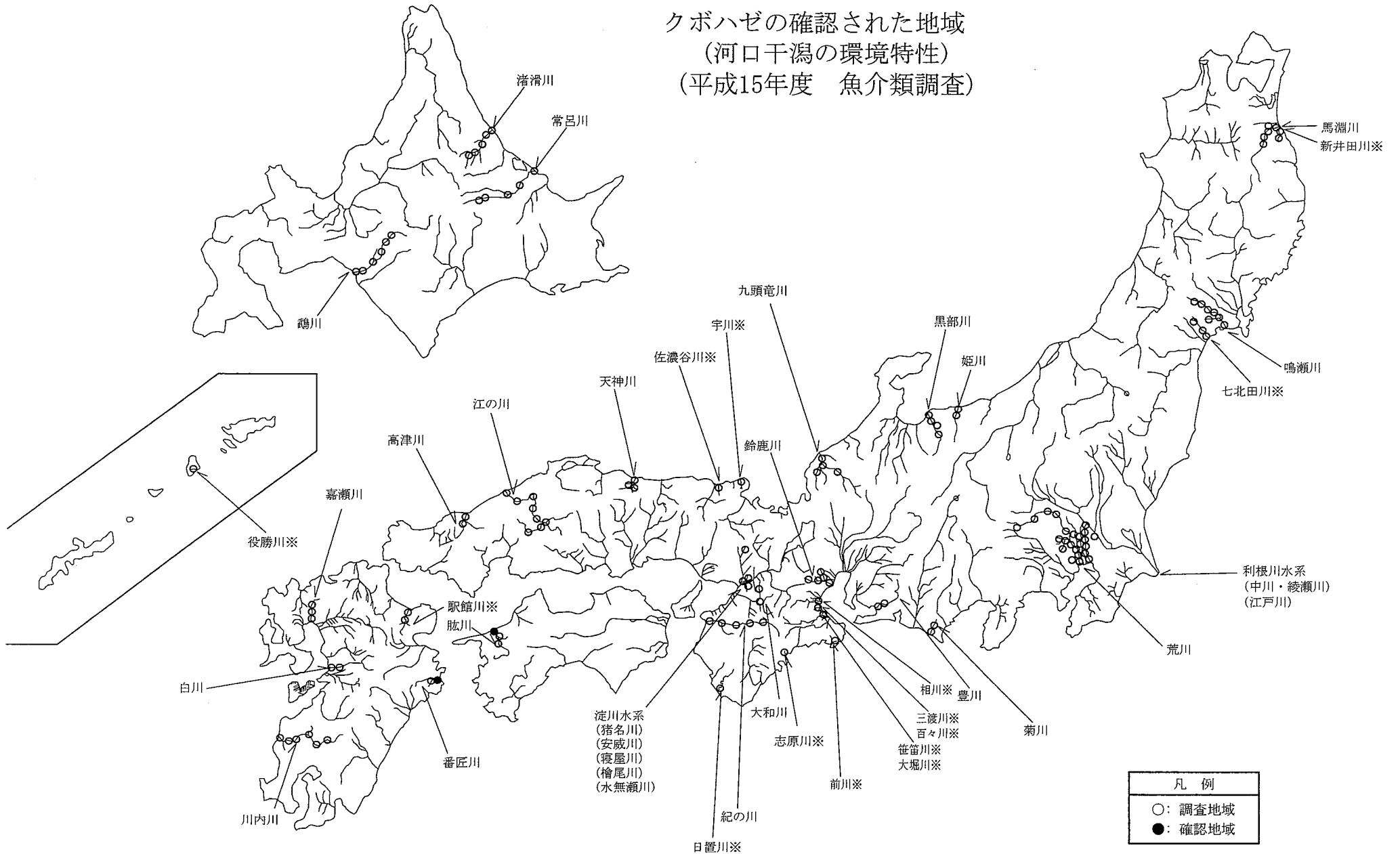


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。



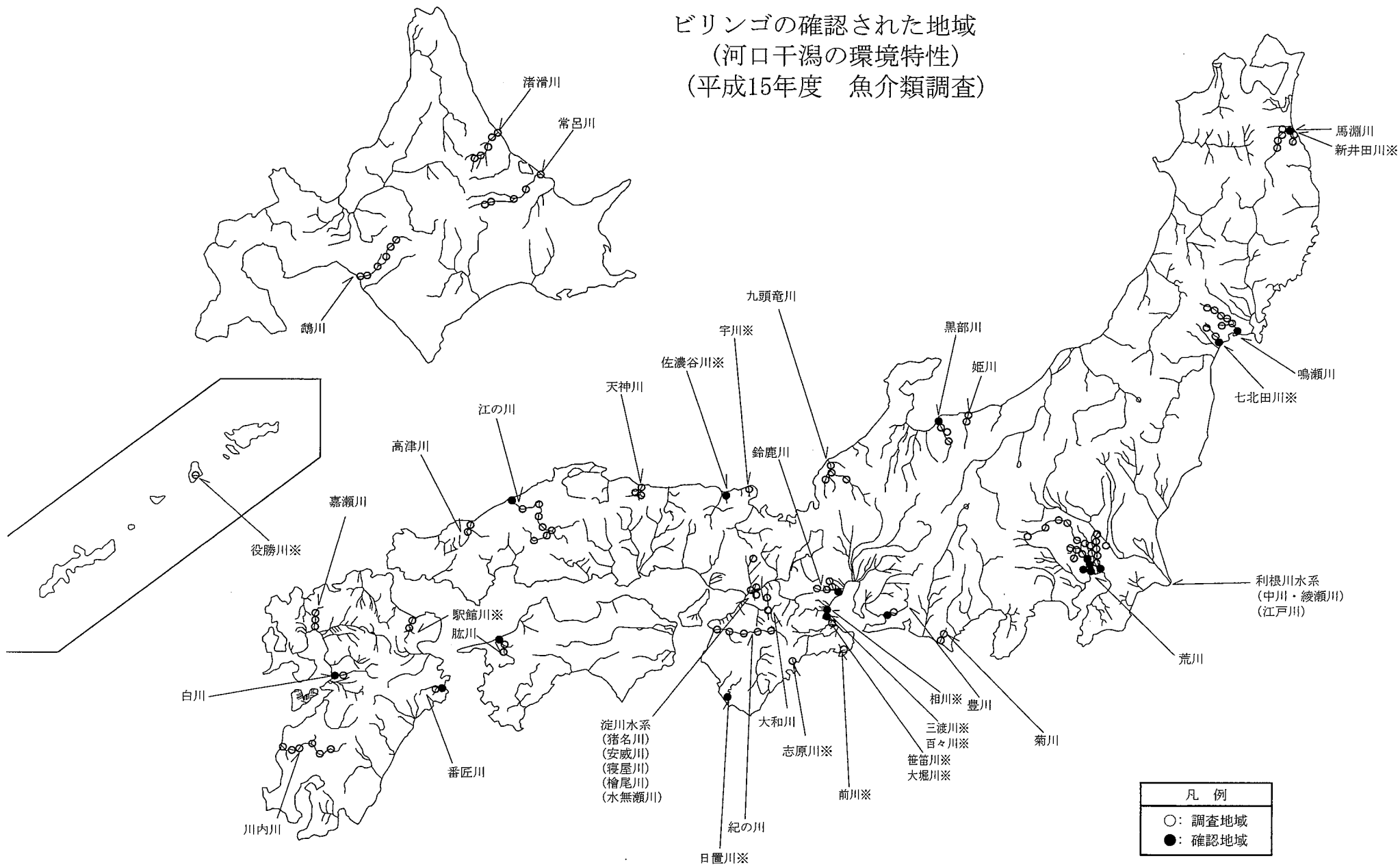
クボハゼの確認された地域  
 (河口干潟の環境特性)  
 (平成15年度 魚介類調査)



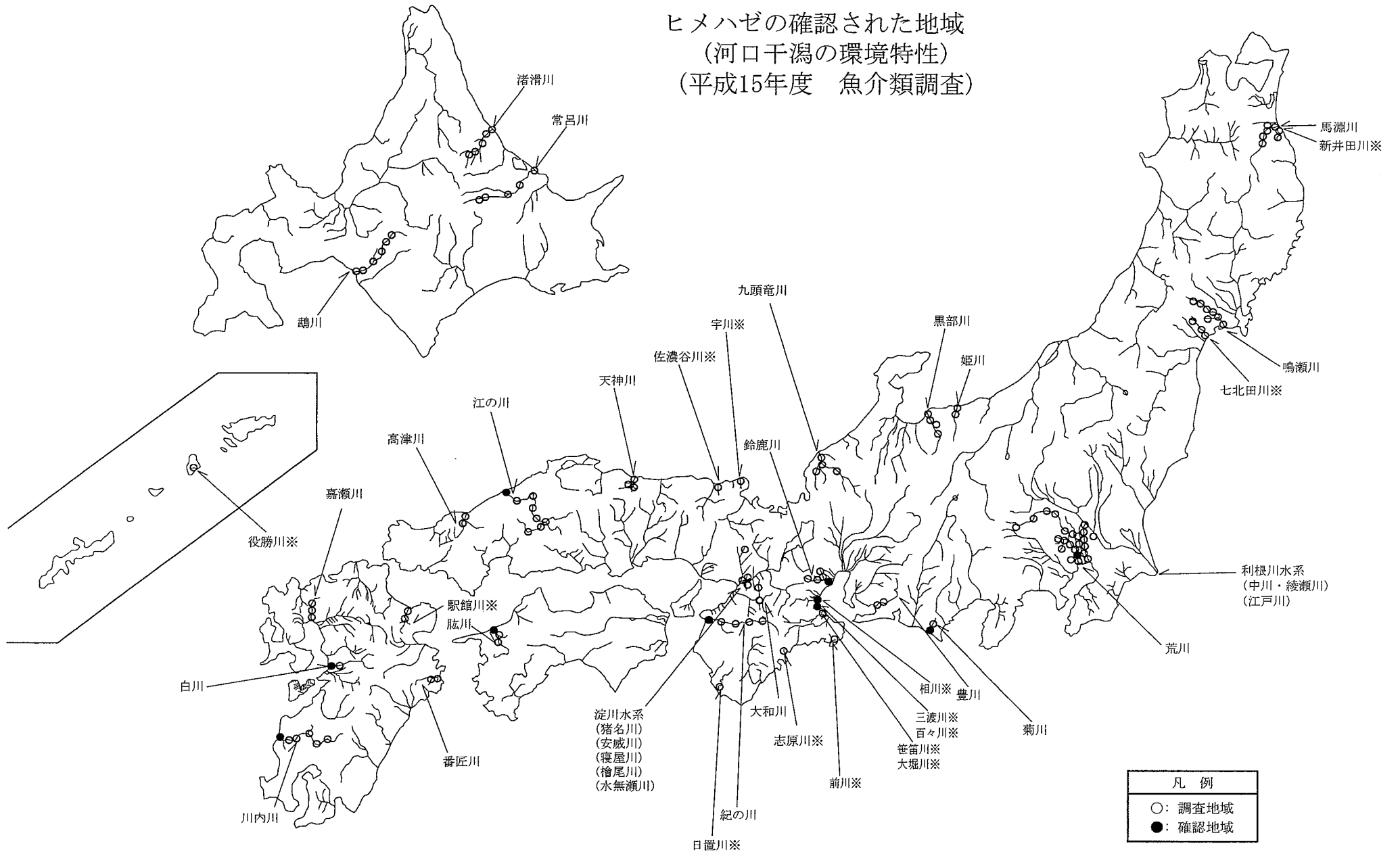
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
 ※印は二級水系(河川)を示す。



ビリンゴの確認された地域  
 (河口干潟の環境特性)  
 (平成15年度 魚介類調査)



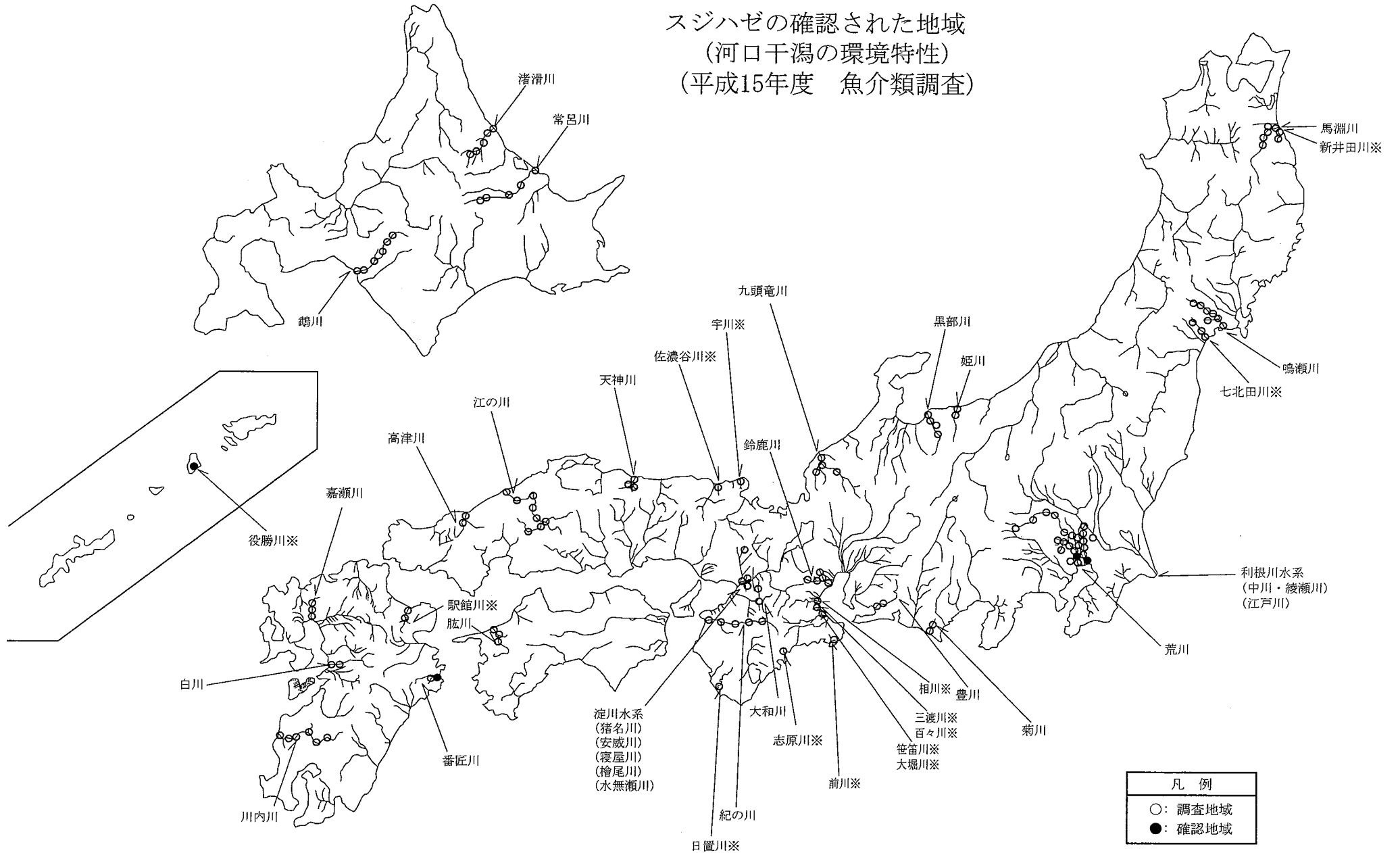
ヒメハゼの確認された地域  
 (河口干潟の環境特性)  
 (平成15年度 魚介類調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
 ※印は二級水系(河川)を示す。

スジハゼの確認された地域  
 (河口干潟の環境特性)  
 (平成15年度 魚介類調査)

1-24



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
 ※印は二級水系(河川)を示す。